

豆の町（ビーンタウン）から  
こんにちは（第1回）

会員家族 住井 円香

編集委・会員家族の住井円香（すみい まどか）さんが高校を卒業してボストン大学に入学しました。ボストンは米国独立にゆかりのある歴史の街であり、多くの有名大学がある学園都市でもあります。そんなボストンでの学生生活を通じ、見たこと思ったことを書いてほしいとお願いしたところ快く受けて頂きました。今回はその第1回です。

## ■ご挨拶

読者の皆さま、初めまして。

この秋、アメリカ・ボストン大学に入学した住井円香と申します。この度はご縁あり、『偕行』で筆ならぬパソコンのキーボードを執る機会を頂戴しました。

さて、連載の題名の「豆の町（ビーンタウン）からこんにちは」の由来です。自己紹介のところで気付かれた方もいらつしやるかもしれません。ボストンはベイクトビーンズという

インゲン豆を使った伝統料理が有名で、そこから通称の一つとして、ボストンはビーンタウンつまり豆の町と呼ばれています。

「豆の町」から寄せる若輩者の拙文が伝統ある『偕行』に掲載されることに恐縮しておりますが、温かい目で見守っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

## ■大学はこんなところ

初めに、私が通うボストン大学について少しだけ紹介させていたいただきます。ボストン大学は、日本の江戸時代後期にあたる1839年に創立されました。現在は学部課程の学生と大学院生を合わせて約3万7千人以上を擁する総合大学です。比較的学生数の規模が小さい大学が多いアメリカでは、在籍者数の多さで有名なです。また、留学生が2割以上を占める国際色豊かな大学としても知られています。

アメリカの大学は地方や郊外に、まるで一つの街のように広大な敷地の中に校舎や寮が集約されているイメージですが、ボストン大学は「キャンパスが存在しない」とよく他大学の学生にからかわれるように、街に

溶け込んだ大学です。路面電車が真ん中を走る大通りの両端にずらりと大学の建物が並んでいます。そのため教室移動のためにちゃっかりと路面電車を利用する学生もたびたび見かけます。

ダウンタウンからは少し離れますが、細長い形をしたキャンパスに並行するようにすぐそばを流れるチャールズ川を挟み、対岸にはケンブリッジ市のマサチューセッツ工科大学とハーバード大学が隣接しています。吉田正尚選手が活躍するボストン・レッドソックスの本拠地、グリーンモンスターで知られるフェンウェイパークまでは歩いて約10分という立地環境です。

## ■入学前準備

入学前と入学後の2回に分けて、アルコールハラスメント、セクシャルハラスメント防止のためのオンライン講習の受講が義務付けられています。まずは入学前の1回目の講習を終えないと、授業の履修登録ができない仕組みになっています。アメリカでもパーティーなど酒類や薬物が提供される場での学生のトラブルは少なくありません。そのた

